

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200501		
法人名	社会福祉法人 志和大樹会		
事業所名	グループホーム ゆいっこ		
所在地	紫波郡紫波町土館字関沢24-1		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	平成27年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0372200501-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 27 年 8 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の介護三訓、目配り・気配り・思いやりを基本ベースにして、事業所の目標そして利用者の介護の総合的な考え方は、昨年度に引き続いて、「自立支援(身体的・精神的)」「役割」「笑顔」を前提として取り組んでいます。利用者の暮らしに関しては、個々人の人権を尊重し、普段の暮らしを継続することで、充実した暮らしを送ることが出来た暮らしを支援することに努めています。また、地域とのつながりでは、地元の保育園・小学生そして高校生・専門学校の活動にも協力するとともに、地域に出かける機会を多く持ち、他者とのかかわりから、利用者が社会の一員としての喜びが満たされるような支援を実行するよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ケア目標を「自立支援」「役割」「笑顔」とし、全職員がその実践に取り組み、「あたりまえのことをあたりまえにする」、また「何もしない体力が衰える」ことから、まず「体力づくり」が大切として、「歩く」ことを重視し、日常的に坂道や段差の多い施設周辺の散歩や事業所の畑など戸外に利用者全員がでているほか、買い物やドライブ等外出の機会を多くしている。食事づくりや掃除なども自分の役割として行うことで自信が生まれ笑顔に繋がっている。また、家族の来訪の機会を多くし、利用者の変化を見てもらうほか、行事には協力者として参加をお願いしている。この取り組み成果が、利用者の希望で前年度実施した歌謡ショーの参観に引き続き、今年度も盛岡での演芸観劇に利用者全員で出掛けた。この時も車での移動は避け、家族の協力を得て盛岡まで電車を利用して出掛け、利用者職員は大きな自信に繋がっている。このように利用者の持てる力を引き出し生活意欲を高める支援をしているが、今後は「いつまでも入居ではなく、自宅で過ごす」を目指す支援をしたいと大きな展望を持っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念(自立支援・役割・笑顔)を共有し、利用者が出来る事の中で「やりがい」や「生きがい」を持って生活出来るようにサポートしている	事業所理念を三つの目標と捉え、その目標実現に向け「利用者のやれること、やれそうなこと」に焦点をあて、その力を発揮することで自信と笑顔が生まれ、生活意欲が高まることを全職員で確認しながら実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校行事への参加、保育園児との交流を行い、地域のスーパーや産直等での買い物をする事により、地域とのつながりを持って生活出来るよう援助している。	小学校の行事に積極的に参加しているほか、保育園児との交流にも取り組んでいる。「ゆいっこ通信」を地域の関係者にも配布したり、日常的にスーパーや産直に買い物に出かけている。野菜の差し入れなど地域との繋がりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の児童生徒の学習、実習の受け入れを通し、認知症の理解の促しや支援の方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催し、事業報告をしたうえで意見や助言を頂いている。また、家族会と合同で他事業所の視察研修を行い、サービス向上に努めている	年度初めの会議では、前年度下期の取り組み状況や、27年度事業計画に対する意見交換、家族会の取り組み状況を報告し、各行事・運営への参加活動・協力の促進に繋げているほか、毎年、家族会と合同で他事業所の視察研修を実施し、ホームと運営推進会議の取り組み運営の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回、介護相談員を受け入れ、役場職員の方にも運営推進委員になって頂き、関係作りを行っている	役場が開催する研修や会議に参加し情報交換をしたり、普段は電話等で業務に関しアドバイス等を受けているほか、行政と事業者等が一緒になって開催する「紫波介護の日」には寸劇を発表するなど連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護推進委員養成研修に参加し、理解を深め、他職員にも共有する機会を設けている他、スピーチロック防止の取り組みも行っている。また、重度の認知症の方も入所されているが日中は窓や自動ドアを施錠することはせず、こまめに居場所確認を行っている	基本的に鍵施錠など身体拘束に繋がる行為は行わない方針のもと、身体拘束廃止の研修に参加し職員全体で共有している。「ちょっと待って」といった言葉によるスピーチロックの行動抑制もその日のケアを振り返り記録するようにしながら防止に繋げている。	利用者の行動制限に繋がるスピーチロック廃止・改善に取り組んでいるが、何気ない言葉がけが利用者大きく影響を及ぼす恐れがあることから、引き続き言葉かけに留意されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進委員養成研修に参加し、理解を深め、他職員にも共有する機会を設けている他、スピーチロックやヒヤリハットを日々記録として残し、職員間の意識付けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月1回の部署会議にて研修を行い、理解を深めるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会または個別に具体的資料を提示し、質疑を問うた上で同意を得た場合、同意書に署名捺印で理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回家族会を開催し、意見を伺う機会を設けているが、普段の面会時にも積極的にご家族とお話することによって情報交換や意見・要望を伺っている	利用者とは何でも話しやすい雰囲気づくりに努め、家族とも電話や面会時のほか、行事への参加時や、年3回開催する家族会での情報交換や話題を大切にしている。また介護相談員を通じた意見も反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度始めに管理者との個別面談を行うが、日常的に職員と同じ目線で業務されており、訴えやすく反映されやすい環境にある	毎月の「ゆいっこ会議」の中で、事前に気づいた意見等を出してもらい意見交換しながら、例えば「健康づくりのための畑作り」に多くの利用者が参加し楽しんでいるなど、「利用者ができることはその機会を設ける」との職員の意見、提案を活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境を整備している	管理者も日常業務に入っており、個々の特性を把握し、少しでも働きやすい環境となるよう取り組んでいると思われる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には職員個々の特性を考慮し参加を促している。また、参加した職員が部署会議で報告する事により研修内容の共有を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人研修を当施設で行い、現状や様子を把握してもらえ、交流を図れるように努めている。他事業所との交換研修を行い、情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がどのような事で困っているのか、日々の話を傾聴し、コミュニケーションを図る事によって関係作りに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族からお話を伺い、こちらから状況報告をする事で情報を共有し、ご家族が要望等を話しやすい関係作りに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し、職員は日々の生活を観察した上で情報を提供し、必要に応じたサービスの提供ができるように努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る事を「役割」として、知識や経験を職員に教えて頂きながら共同で行っている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や誕生会にはご家族の参加協力をお願いし、職員と一緒に支援して頂いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって馴染みのある方や、ご家族の面会の際には、一緒に写真を撮って居室に飾ったり、また来て頂ける様声をかけ、一緒にお見送りするようにしている	近隣の方や馴染みの方が来訪された際は、必ず写真を撮り記録に残し居室に張り継続的に馴染みが続くよう配慮している。「あの人に会いたい」といった時は家族の協力の下でその実現を図るなど、「今を大切にしたい支援」に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、感情の変化を理解し、必要に応じて職員が間に入り関わる事で、良い雰囲気作りに努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	どなたでも来所できるような体制をとり、丁寧な対応ができる雰囲気作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や表情、行動から希望や要望を汲み取るようにしている	居室の中や、入浴中、散歩中、皆と団らん時など、様々の機会を捉えて「やりたいこと」「関心のあること」等の思いや希望を聞きだすよう日頃から心掛け、その希望の実現に向け、誕生会をグリーンホテルで実施したり、演芸観賞等に家族の協力を得ながら利用者全員で参加するなどの実現を果している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族、面会にいらっしゃる知人等の関わりのあった方々にも、どんな生活をされてきたか情報を収集し、生活の中に生かすよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、状況、心身状態の変化を個別に記録し、口頭で申し送る他にノートに残す事によって職員間で共有し現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族との会話の中から、希望や意向を把握し、部署会議内で情報の共有をしたうえで意見を出し合い、計画に反映している	利用者の思いや身体状況、家族の意向をもとに、目標と達成に向けた介護計画をつくり、部署会議で対応方法等を話し合い情報を共有している。その取り組み結果についてモニタリングをしっかりと行い状況変化を把握して見直しの必要性に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状況の変化やケアの実践、結果等を日々時系列の記録にし、職員間で情報を共有し、ケアのあり方や計画の見直しの参考にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化やニーズの変化にはその都度職員間で検討し、適切なケアを提供できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの受け入れや、地域の理髪店等を利用する事により、地域の方々との関係作りに努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回、嘱託医の往診があり、その他の町内の専門医と緊急時の受診は職員が対応し、入所前からのかかりつけ医やご家族が希望する病院への通院はご家族に協力頂いている	毎週1回、法人の嘱託医の往診をお願いし健康管理や適切な医療支援に配慮している。また病院への通院は家族が、緊急時の医療受診は職員が対応し、その結果を家族にお知らせし安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化や気づきがあった際には、随時看護師に報告相談し、助言を貰って適切なケアができるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には情報交換ができるよう常に情報を整理し、まとめている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当法人では看取りは実施していないが、各利用者の状態を観察し、体調不良等、状態が悪化してもできるだけ特養の看護師と連携を図りながら、必要に応じたケアを提供し、重度化にさせないように日々早期発見を目指し介護している	重度化のため医療が必要となったときは、隣接する特養ホームの活用や看護師の支援のほか、病院などを紹介している。また看取りについては入居時に実施していない旨を説明し理解を得ている。	要介護者の増加に伴う終末支援のニーズの増大と看取りの場の確保が深刻な課題となっている中で、利用者・家族の意向を踏まえながら「自分らしい最後」を支援する環境の整備と研修などの取り組みに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、会議で確認し目に付く所に張り出す事により、職員の意識付けを行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員間の電話連絡訓練や、年2回のマニュアルに基づいた地域の方々の協力を得ての防災訓練、野外炊事等の取り組みを通じ、緊急対応の防災に対する意識を高めている	消防署の指導のもと、また地域の防災協力隊の参加、協力のもとで法人と合同の避難訓練を実施している。また、5月に事業所独自に職員間の電話連絡訓練を行ったが、伝言内容が正確に伝わらないなどの課題が見つかり、今後活かしたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の状況に応じた対応の中で、スピーチロック等の取り組みを通じて職員一人ひとりが意識しながら他者の目も考慮して声を掛ける様に努めている	一人ひとり多様な個性や生活歴を持っていることを踏まえ、プライドを大切にしながらも、本人の気持ちを考えよそゆきでない地域の自然な話し方、接し方で対応している。それが日常生活の上で親しみと話しやすい環境づくりに繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる、できないに関わらず、1度は希望を伺ったり、選択する形で自己決定の後押しとなるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての人の全ての要望に応える事は難しいが、何をしたいのか希望を聞きつつ、一人ひとりのペースで体調や動きに合わせ、趣味や生活歴を活かして過ごして頂けるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には白髪染めをしたり、衣類等を買う外出も希望に合わせて、できるだけ対応するようにし、自ら好みの服を選んで購入できるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や、畑で育てた野菜で、利用者に関心ながら献立を立てたり、会話を楽しみながら一緒に下ごしらえや盛り付け等を行っている。片付けは、利用者が主として行い、職員は見守りと補助をする形で一緒に行っている	事業所の畑で収穫した新鮮な野菜を採り入れたメニューとしたり、食事作りでは調理や味付け、片付け等を自分の役割として行っている。また買い物に行くことで馴染みの人と会うことがあるため出かけるようにしているほか、時には誕生会で弁当をとったり、ホテルにいったりと楽しみながらの食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状態に適切な提供量や形状であるかを毎月の会議の他、随時検討、共有し、摂取量を記録に残している。また、記録に基づき、不足分は補食をしたり時間をずらして提供し、1日の必要量を確保している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、自力で行える方にも。歯科医による指導の基、職員が仕上げを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンを把握し、その人に合ったタイミングでトイレ誘導や声がけを行っている。また、使用しているパット類も随時検討し、自立できる環境作りを行っている	オムツをしないことを基本姿勢としてトイレ誘導や声かけで全員がトイレ排泄である。夜中はポータブルトイレを利用し1人で排泄している方もいる。便失禁だった方がトイレでの排泄ができるよう改善された利用者もいる。便通改善のため水分を多く取るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、個々の便秘の原因や影響を把握したうえで、乳製品を提供したり、軽体操の実施等、個別に予防策をとっている。また、かかりつけ医の指示のもと、必要な方には下剤の内服を併せて行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は決めているが、希望時や発汗、汚染等の状況に応じて随時入浴、もしくはシャワー浴を行っている	週2日の入浴としているが、夏場は汗をかいたりするため、希望に応じシャワー浴等ができるよう配慮している。入浴を拒否したり、異性介助を嫌がる利用者には職員を変えたりしながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は各居室や共有スペースで、希望に合わせて休めるようにしている。夜間は居室を安眠できる環境にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に処方された「お薬説明書」を読み、理解に努め、内服薬に変更、追加があった際には確実に申し送り、情報の共有を行い、内服変更による変化の観察を行い、記録に残している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味を活かせることを「役割」として担ってもらい、嗜好品や趣味等はご家族からも情報をいただき、日々の生活に反映するように努めている。また、季節に合わせた行事や食事の提供を行い、気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩、ドライブ、買い物は日常的に行い、地域の行事や電車での移動、夜間の外出にはご家族もお誘いし、付き添って頂いている	事業所周辺の散歩や畑に出たり、地域行事、白鳥見学、ドライブ、買い物など日常的に「外出は当たり前のこと」、「外出しないと体力が衰える」という認識のもとで、多く戸外に出るよう支援している。特徴的な取り組みとして家族の協力を得て盛岡まで劇団公演や歌謡ショー観賞のため利用者全員で電車利用で出掛けている。	利用者との何気ない会話から劇団講演や歌謡ショーに出掛けるきっかけをつくり、その実現に向けた体力づくり、自立したトイレ利用訓練、車で盛岡に行くのではなく、敢えて電車を利用し、様々の方との出会いを大切にするなど、その取り組みプロセスは素晴らしいものであり今後も継続することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人や、ご家族から希望が合った場合には、普段は担当職員が管理し、買い物時に本人に財布を渡したり、常に自身で保管したりと、能力に応じた対応をしている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望、訴えがあった際に、必要に応じて行っている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候や気温に応じて、照明や冷暖房の使用調節を行い、利用者の動線上や共有スペースには不必要な物は置かず、使いやすい空間にするように努めている。また、季節の草花を利用者と採って来て飾ったり、一緒に作った装飾や写真を飾って工夫している	常に利用者がある共用スペースは四季に応じた天候を見ながら空調調整をし居心地のよい快適な共用空間づくりに配慮している。回りには不必要な物は置かず、季節の花を飾ったり、行事写真を貼っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の希望や状況に合わせた場所や、好みの空間で過ごせる様に、廊下に椅子や畳を置いたり、座った場所にテーブルを配置する等、居場所作りに努めている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使い慣れた物を持参して頂いたり、居室に好みの物を置いて居心地の良い居室作りに努めている	自分の若い頃の写真や家族写真、観葉植物、テーブルなど思い思いの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせる居室づくりに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「便所」と大きく表示し、分かりやすくしたり、必要な方には居室に大きく名前を貼ったり、ご自身の写真を貼って分かるようにしている			